

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こたふくの部屋			
○保護者評価実施期間	R7年 2月 15日		～	R7年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31人	(回答者数)	26人
○従業者評価実施期間	R7年 2月 15日		～	R7年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	3人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 31日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	絵カードやボックス、掲示物など視覚支援の充実や、児童の分かりやすいような環境の構造化など、児童の個性を重視した対応や取り組みを行っております。	個々の特性や理解度をアセスメントを日々実施し、それぞれの目標や課題に合わせた療育を心がけています。そのため、職員同士日々情報共有をしながら、取り組みに向けて準備をしています。	日々、実施した内容について振り返りを実施し、細かい改善を行っていくと同時に、新しい取り組みのインプットを行っていけたらと思います。並行して、職員一人ひとりの資質向上を目指していきます。
2	うんどう、制作、SSTなど5領域をもとに、児童一人ひとりに合わせた多様なプログラムと集団活動を提供しています。子どもの状態やペースに寄り添い、最適な支援を行えるよう努めています。	職員一人ひとりが児童発達支援に関する様々な取り組みや情報をインプットして、事業所を利用する児童たちが取り組めるかどうかを検討しています。新しい取り組みは何でもやってみるという柔軟な姿勢があります。	今後も他事業所の取り組みや取り入れられることは少しずつチャレンジしていきながら、必要があれば環境の構造化を実施したり、物品、療育や支援ツール等の充実を目指していきます。
3	併設している高齢者グループホームの入居者様と定期的な交流を実施し、高齢の方を労わる気持ちや社会性を育てています。	高齢者グループホームの職員と相談・連携を行い、ポジティブな相互作用があるよう、狙いを決めて行事を実施しています。職員が間に介し、優しく思いやる声かけや接し方を学んでもらっています。	感染症リスクマネジメントの観点から、実施回数が少なくなっていますが、様子を見ながら少しずつ交流の機会を増やして行けたらと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士の交流や、意見交換の機会を設けることが出来ていません。	事業所の営業日が週6日であることから、なかなか保護者の支援プログラムの実施をすることが難しい状況があります。また、職員の体制的に、ペアレントトレーニングが実施出来るほどの余裕を持つことが出来ていません。	営業日や体制的な問題は会社と相談して現実的に実施可能な方向性を探っていきます。その間は、保護者のニーズを聞き取りながら、現状の職員でペアレントトレーニングに必要なスキルを身に着的するための研修の参加などをしていけたらと考えています。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が設けられていません。	歩行が不安定な児童や、他者との交流の際に1対1の対応が必要な児童が複数おり、安全に活動するための職員体制が整わないことが要因と考えています。	様々な児童との交流や、楽しめる取り組みを実施できるよう、新しい人材の確保をして、職員体制を整えていけたらと思います。
3	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等全てのマニュアル類の整備がされていることや、災害等の避難訓練の実施、安全計画が策定されていることについて保護者様の認知が獲得できていません。	避難訓練等の実施はSNS等でもしていますが、マニュアル類についてはご契約時の説明が多く、その後、これらの情報について定期的な発信が不足していることが要因と考えられます。	既に整備しているマニュアルや、策定済みの計画、訓練等の取り組みや研修に関する実施の報告などについては、今後もSNSや運営支援システム等で発信の頻度を増やしていきたいと思っています。